

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,369	t-CO <sub>2</sub>
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素排 換出 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,369

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）				%		%		%	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）						%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度		
原単位あたりの 排 出 量	3.965	t-CO <sub>2</sub> / 千万円	3.787	t-CO <sub>2</sub> / 千万円	3.858	t-CO <sub>2</sub> / 千万円	3.904	t-CO <sub>2</sub> / 千万円	t-CO <sub>2</sub> / 千万円
削減率（対 基準年度）			4.5	%	2.7	%	1.5	%	%
原単位あたりの みなし排出量						t-CO <sub>2</sub> / 千万円		t-CO <sub>2</sub> / 千万円	t-CO <sub>2</sub> / 千万円
削減率（対 基準年度）						%		%	%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和6年度は前年度の令和5年度より売上高が減少することが初期の見込みの段階で分かっていたので、事前に製造担当社員と計画・相談などを行い製造ライン等の集約したことでコンベアーや包装機などの機器の停止時間を設け電力使用量などを削減した。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源行動の実践(冷暖房)	1. 事務部門温度設定 夏季28度、冬季20度 2. 高効率な空調への更新 3. 夏季のクールビズ活動 4. 空調フィルターの定期清掃	古いエアコンから順次 高効率空調への更新 10台/3年間 室外機洗浄 79台/3年間	製造ラインを集約することで機器や部屋の空き時間を前年より多く設け節電を行った。
省エネルギー・省資源行動の実践(照明・OA機器)	1. 未使用箇所及び昼休みの消灯 2. 照明取替え時における省エネタイプの採用 3. パソコンの未使用時電源オフ 4. 使用してない機器は待機状態から主電源オフ	照明器具LED化 20台/1年間 照明器具高効率化 10台/1年間	照明器具 50台 LED化
自動車等輸送に関する対策	1. 急発進、急加速を控え、アイドリングストップの励行等エコドライブの推進 2. 相乗りなどにより、自動車利用効率の効率化を図る 3. 移動先に応じ公共交通機関での移動 4. ハイブリッド車の導入		社有車が5台ある為、燃費の良い車を優先して使用する。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 2 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<p>1. 事業活動での環境影響を正確に把握して、法令等の遵守と自主的改善目標に全員で取組、環境問題の未然防止と断続的な向上を図る。</p> <p>2. 省エネルギー・省資源・廃棄物削減・リサイクル等で資源の節約を図ると共に環境改善を通じて社会に貢献する。</p> <p>3. 従業員一人一人に至る環境教育に努め、環境を大切にする企業風土を醸成する。</p>
---

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>定時退社に努める。</p> <p>動車の利用を控え公共交通機関の使用をする。</p>	自
---	---